


令和3年度第2回
総合教育会議

2022年2月10日

GIGAスクールの概要と 現在の活用状況

教育総務課 教育指導課

本日の構成

- 1 .GIGAスクール構想について
 - 2 .GIGAスクール構想における藤沢市の整備
 - 3 .導入機器の活用
 - 4 .今後の取組と課題
 - 5 .学校への支援体制
- 

1.GIGAスクール構想について



1.1 GIGAスクール構想とは①

Global and Innovation Gateway for All

GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの教育実践の蓄積

× ICT

=

学習活動の一層充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

「1人1台端末」ではない環境

一斉学習

- ・ 教師が電子黒板等を用いて説明し子供たちの興味関心意欲を高めることはできる



学びの
深化

- ・ 教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる
→ 子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に



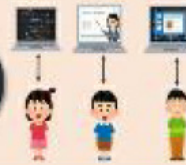
個別学習

- ・ 全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学びは困難)



学びの
転換

- ・ 各人が同時に別々の内容を学習できる
・ 各人の学習履歴が自動的に記録される
→ 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に



協働学習

- ・ グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい(積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に)

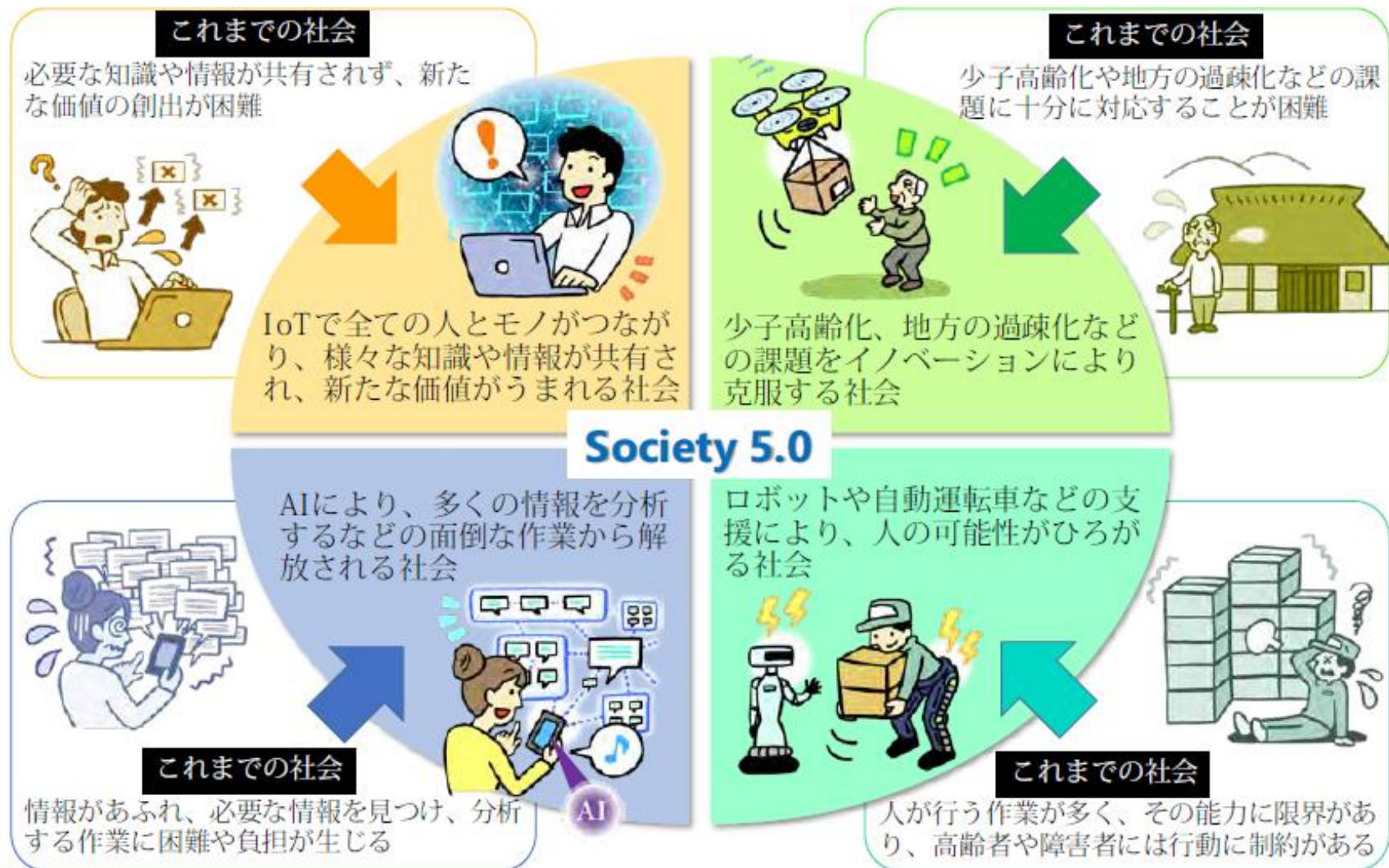


- ・ 一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる
・ 各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる
→ 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる



1.2 GIGAスクール構想の背景①

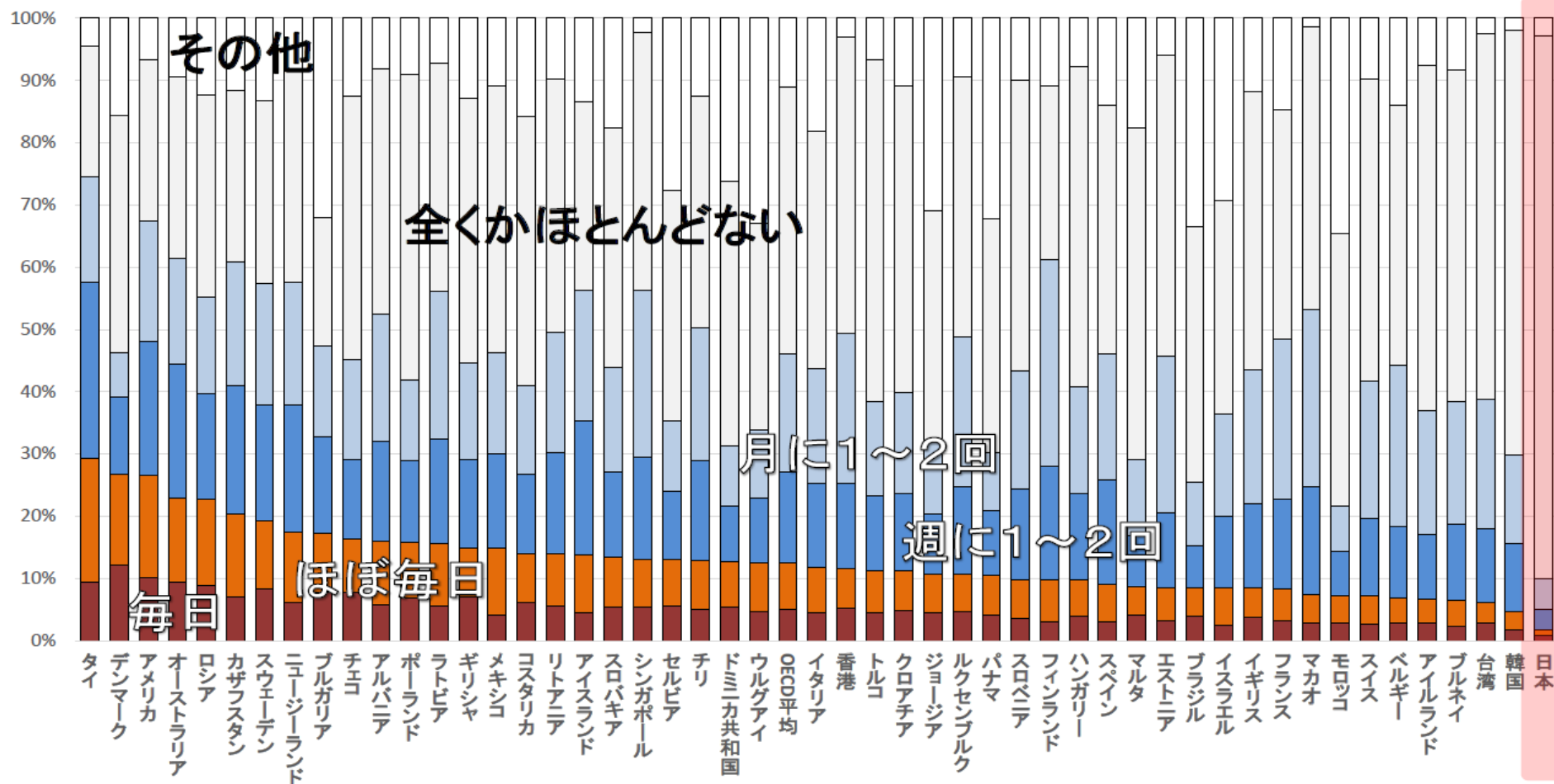
Society 5.0で実現する社会



1.2 GIGAスクール構想の背景②

OECD/PISA 2018年 ICT活用調査

学校での使用頻度：ほかの生徒と共同作業をするために、コンピュータを使う



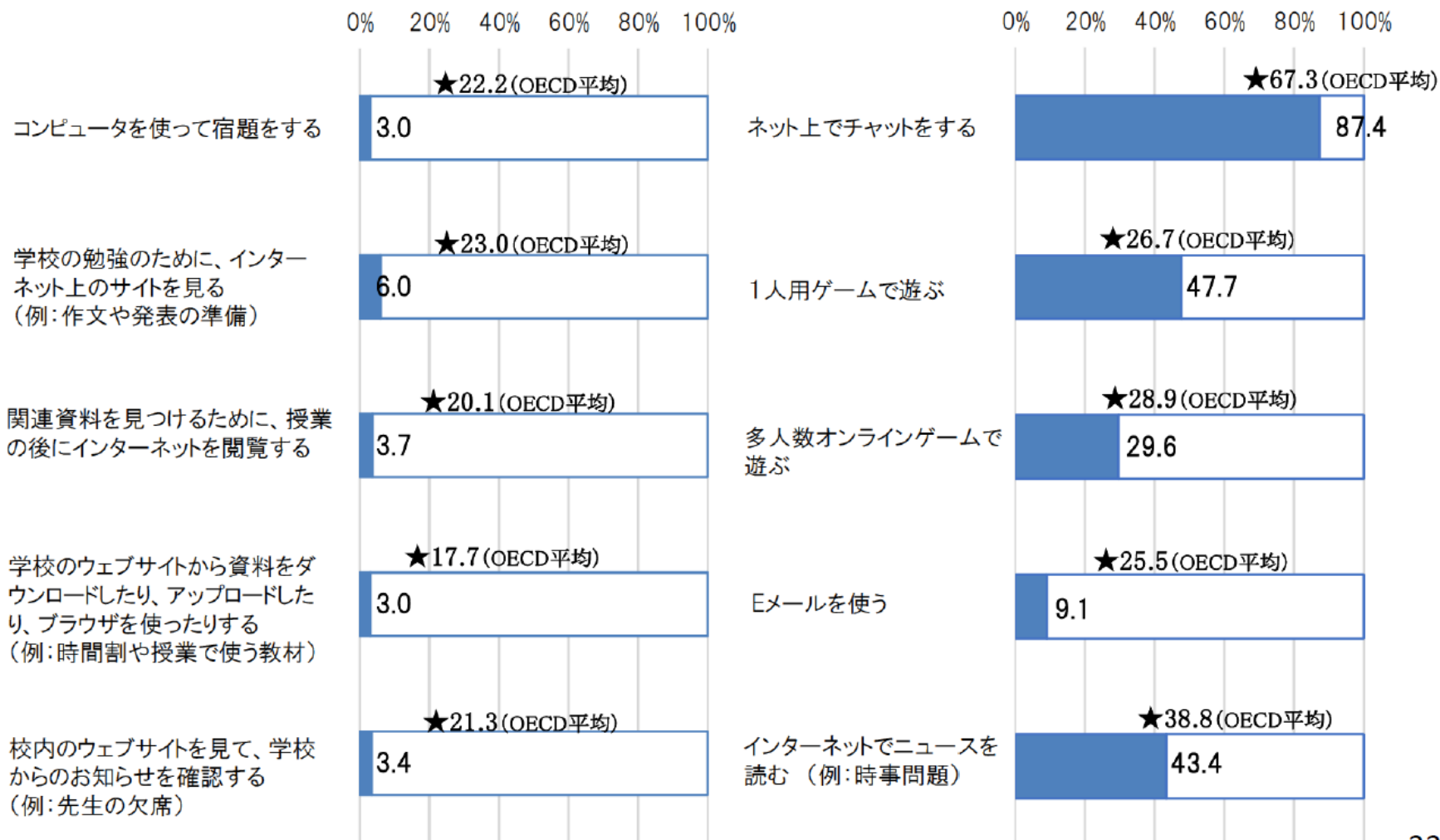
出典 OECD生徒の学習到達度調査(PISA2018)「ICT活用調査」

ICTを活用した学習に関する他の指標も軒並み最下位

1.2 GIGAスクール構想の背景③

OECD/PISA 2018年 ICT活用調査

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



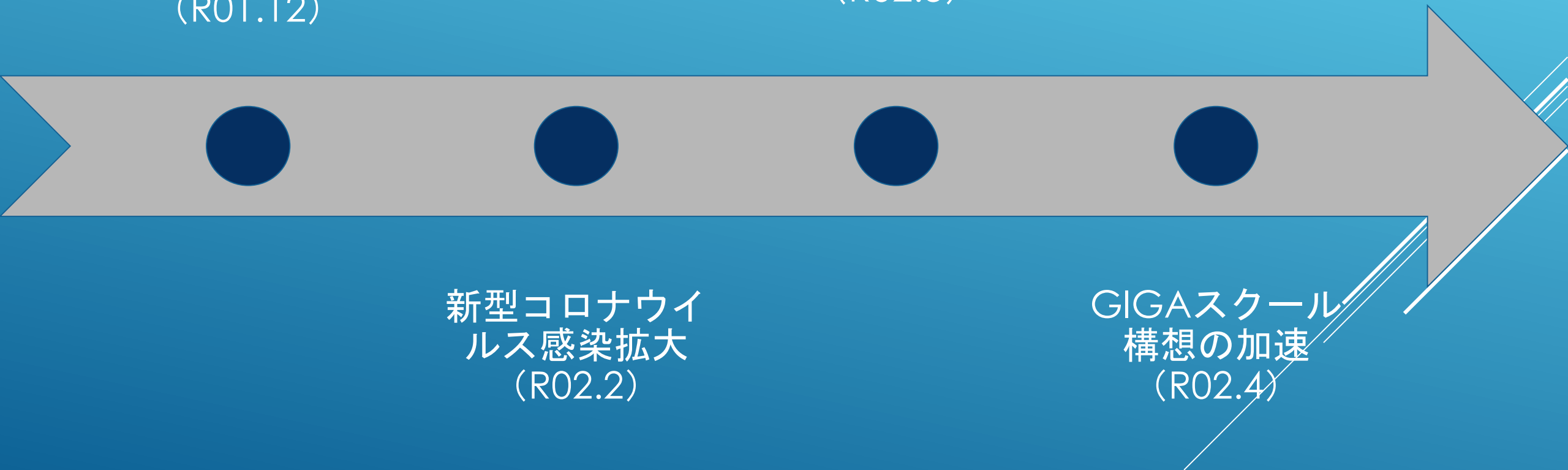
1.3 GIGAスクール構想と新型コロナウイルス

GIGAスクール
構想公表
(R01.12)

一斉休校
(R02.3)

新型コロナウイルス
感染拡大
(R02.2)

GIGAスクール
構想の加速
(R02.4)



2.GIGAスクール構想における藤沢市の整備について

2.1 藤沢市の整備端末（小学校）

低学年



Windowsタブレット
（これまでに整備した端末）



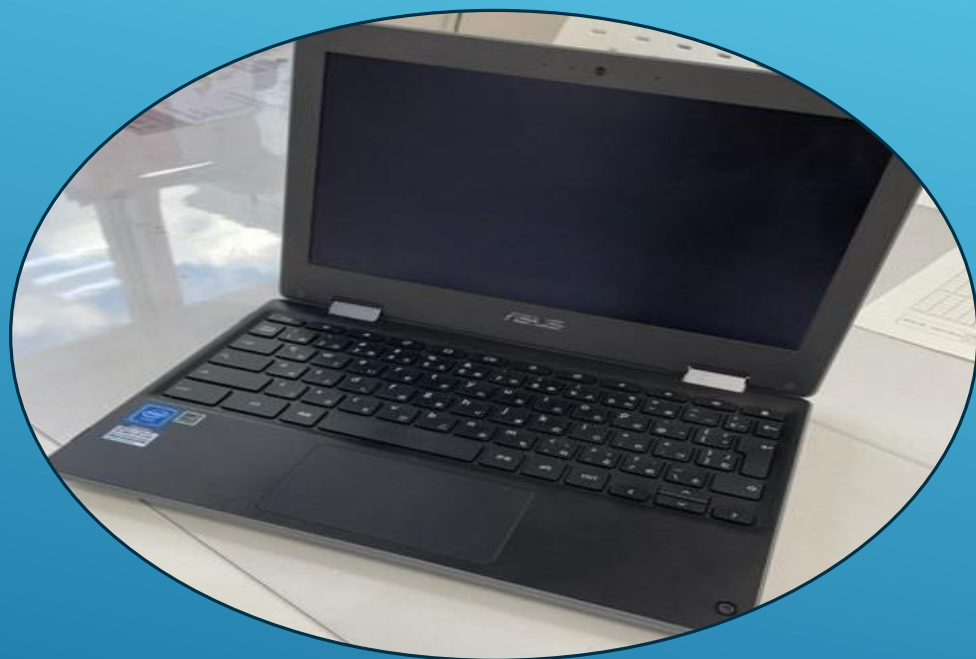
Chromebook
（タブレットタイプ）

中高学年



Chromebook
（ノートPCタイプ）

2.1 藤沢市の整備端末（中学校）



Chromebook
(ノートPCタイプ)



Windowsタブレット
(これまでに整備した端末)

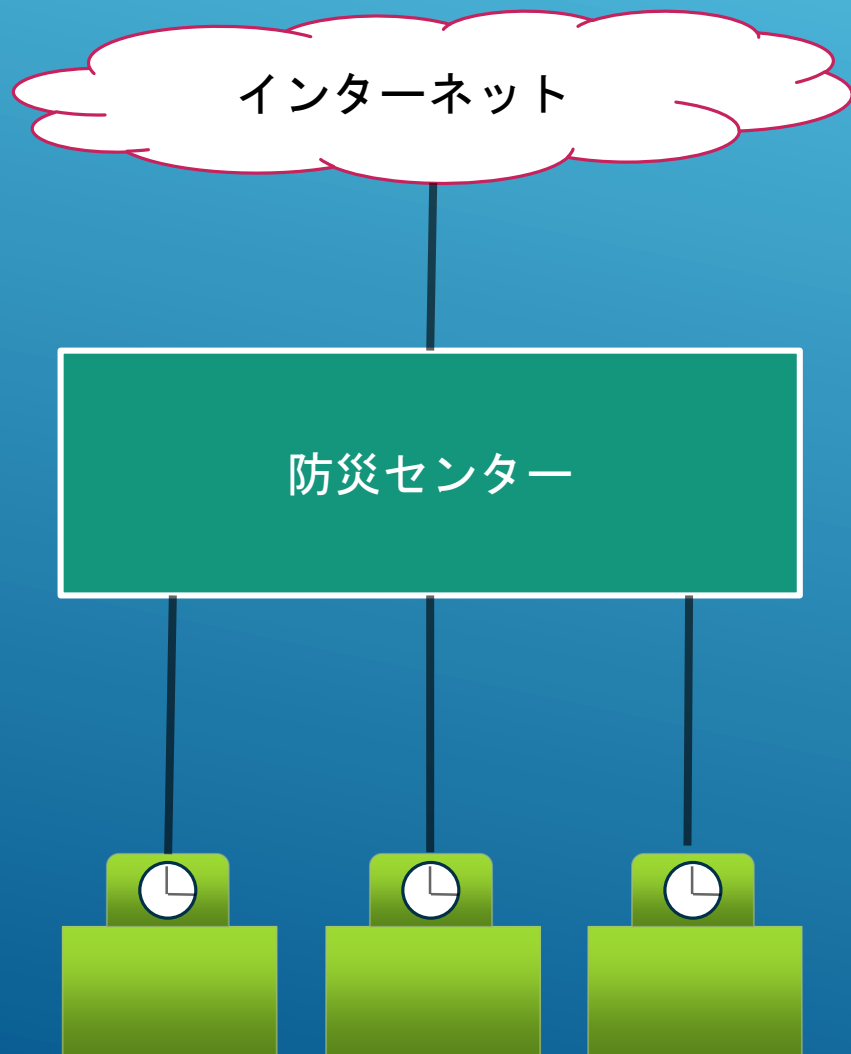
2.1 藤沢市の整備端末（特別支援学校）



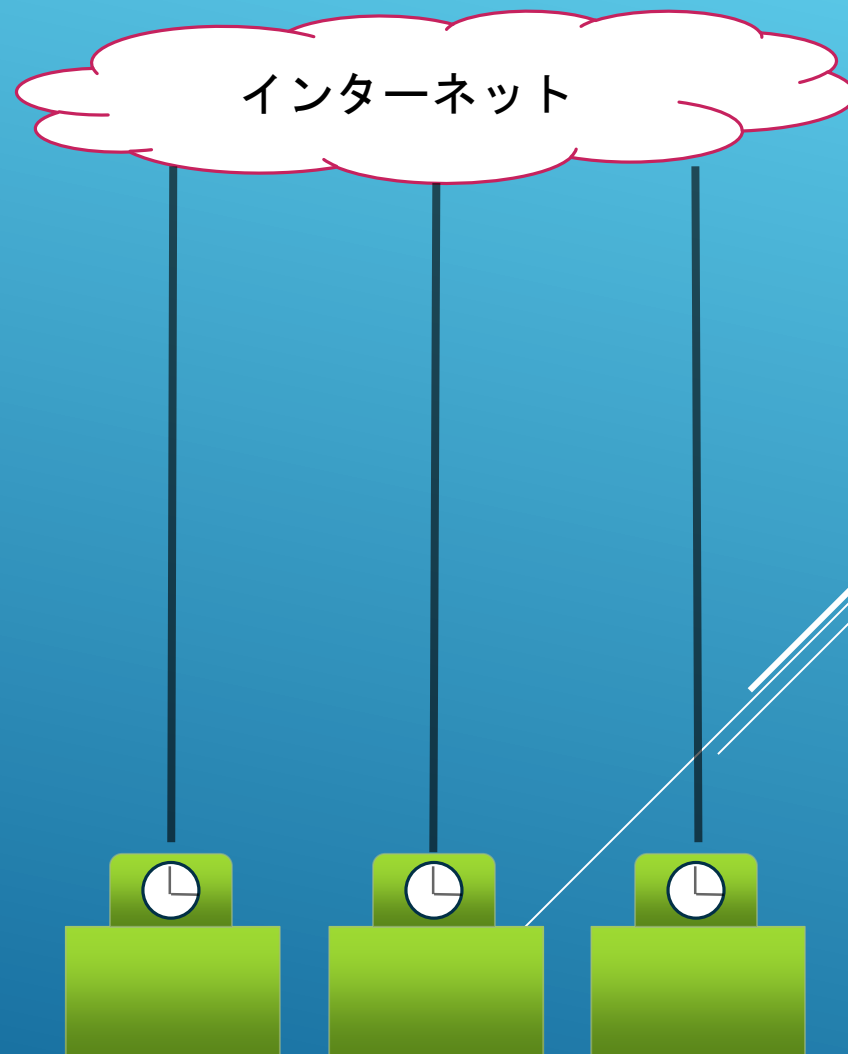
iPad

2.2 ネットワーク増強整備

これまでの学習用ネットワーク環境



整備後の学習用ネットワーク環境



2.3 授業支援ソフト

Google Workspace for Education

- オフィス機能（文書作成、表計算、プレゼンテーション等）
- コミュニケーションツール（ビデオ会議、共同編集）

ロイロノート

- シンキングツール
- 協働学習ツール

2.4 クラウドシステムの活用



どこでも
同じ情報が共有できる



3.現在の取り組みについて



3.1 実際に授業で使用している場面をご覧ください。

(1) 本町小学校

https://youtu.be/_a62_GZ52Aw

(2) 秋葉台中学校

https://youtu.be/xHLo_6MzuMU

3.2 緊急時でもオンラインを活用して学習保障するために 第5波以降の取組

教育委員会より

○「オンライン配信等による学習保障」 学校へ通知

○「1人1台端末を活用した家庭での学習について」 保護者へ文書送付
学習課題の配信、授業のライブ配信、オンデマンド配信（録画配信）
家庭での協力を依頼

○通信環境の整っていない家庭にモバイルWi-Fi
ルーターの貸し出し

○教員がオンライン学習を行う際等の人的支援として
補正予算で介助員の時数を追加配当



3.2 緊急時でもオンラインを活用して学習保障するために

第5波以降の取組

各学校が実施

○Wi-Fi接続環境調査（自宅Wi-Fiに接続しGoogleアカウントでログイン）

○GoogleMeet接続テスト（自宅と学校をつなぎ顔を見ながら会話する）

○GoogleClassroomを使用（端末を使用して課題のやり取りに慣れる）

9月15日(水) 今日の時間割			
時間	科目など	内容	欠席したとき
8 : 15 ~ 8 : 30	登校 健康観察	健康調査票の記入をお願いします。	8 : 25になったら ミー トに参加しましょう。
1時間目	社会	ノートまとめ 「自然災害にそなえるまちづくり」	教科書はP82~ポイントは、次の通り。 ・県や市区町村はどんなことをするか。
2時間目	算数	わり算	計算ドリルはP13~

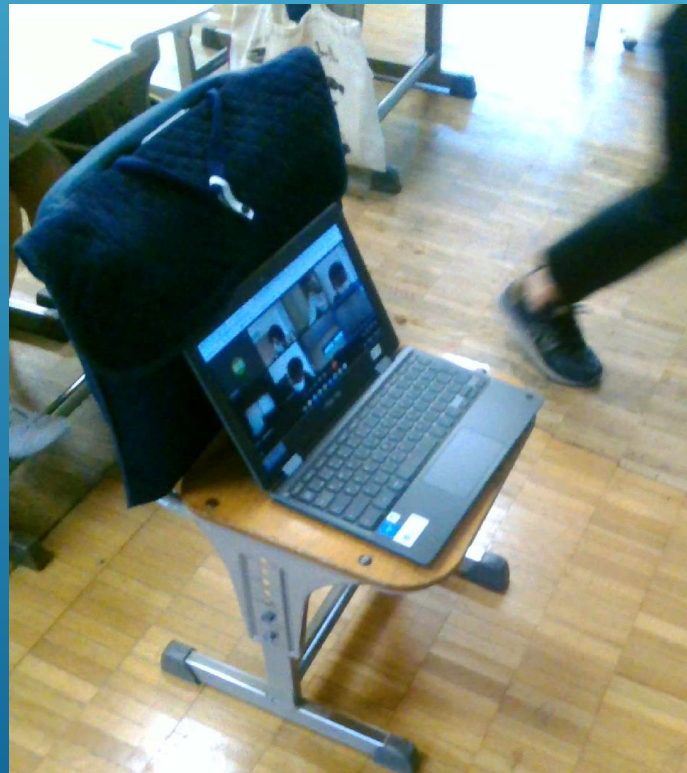
3.3 コロナ禍にやむを得ず登校できない児童生徒への学習支援

自宅待機している児童と教室をオンラインでつないだ例（GoogleMeet Live配信）

朝の会の配信



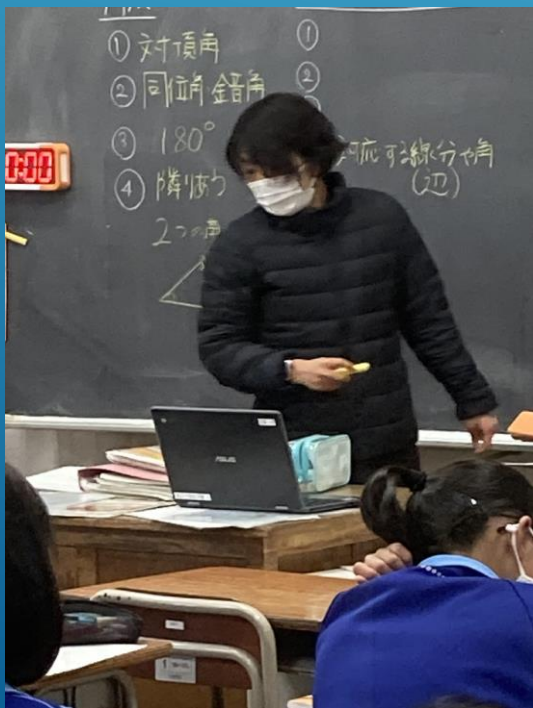
授業のLive配信



3.3 コロナ禍にやむを得ず登校できない児童生徒への学習支援

自宅待機している生徒への授業配信 中学校の例（GoogleMeet Live配信）

授業のLive配信 黒板と教員の映像を常時配信



4. 今後の取り組みと課題

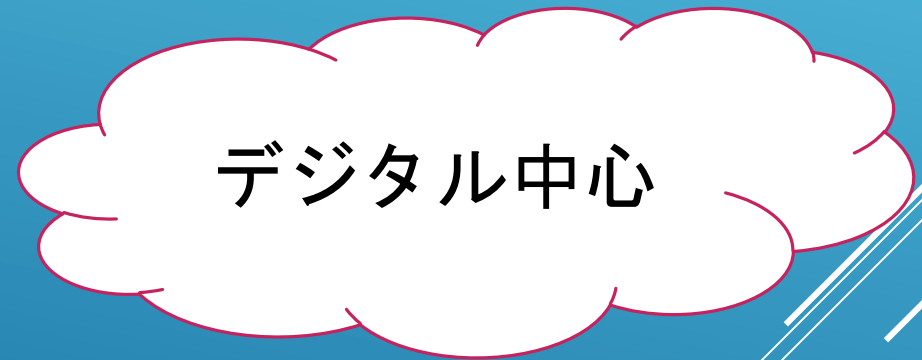


4.1 これからの未来は

5年・10年先に子どもたちにとって何が必要かを考える必要がある。



or



情報活用能力を教科横断的に育成

4.2 情報リテラシーと情報モラル①



4.2 情報リテラシーと情報モラル②

とにかく使ってみる！

文部科学省ICT教育活用アドバイザー平井聡一郎氏

学校は失敗できる場所

5.学校への支援体制



5.1 ICT支援員

ICT支援員の主な業務

- 授業におけるICT機器の準備・片付け
- ICT機器のメンテナンス
- 情報リテラシー指導
- 情報モラル指導
- 児童生徒、教職員のICT機器操作支援
- 学校ホームページ更新作業
- トラブル発生時切り分け作業
- アカウント管理サポート

など



5.2 情報共有（チャット）

情報交換チャットルーム - Chat

mail.google.com/chat/u/0/#chat/space/AAAawCyyAus

Chat

チャットとスペースを検索

アクティブ

情報交換チャットルーム

94人のメンバー

Chat ファイル タスク

正広 9月14日, 8:05

ヤマハから、コロナ禍における児童生徒の学習支援として、小学校デジタル教材の一部を無償公開しています。期間は10月31日までとなっております。クロームブックの場合、端末環境をチェックするとNGと出ますが問題なく使えそうです。
<https://ses.yamaha.com/special/gift-digital/>

【公開コンテンツを限定して無料公開を継続中】

楽しすぎて、あっという間に時間がたっちゃうね！

キミは、何曲攻略できるかな？

子供たちのソプラノリコーダー、おはアルトリコーダーをご利用ください

学校やご家庭で学習できるデジタル教材...
ses.yamaha.com

正広 11月16日, 15:36 • 編集済み

↓ 一番下に移動

損保ジャパン株式会社が「学校配布タブレットとの上...」の親子向け対話型教材を提供していたので共有いたします。静岡大学教育学部塩田研究室監修です。<http://shirodasango.main.jp/>←静岡大学教委学部塩田研究室HPです。他にも「アイケアプログラム」や子どもたち自身がICTトラブルを解決するための力を育てる「スクールエンジニア」(SE)検査員が活躍しています。... 所々にあります。... ありません。

5.4 これから

- ▶パイロット校での実践を始めとした良好事例の共有
 - ▶ICT支援員の支援の充実
 - ▶教職員への研修
- 